

今日のキーワード 楽しそう！シンガポールの『IR』

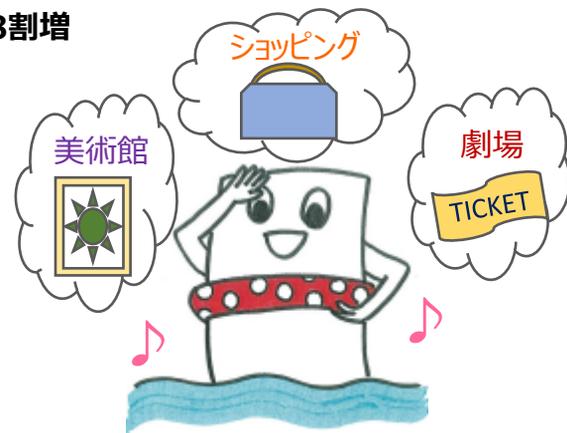
『IR』とは、英語のIntegrated Resortの頭文字を取ったもので、日本語では「統合型リゾート」と言われます。カジノや国際会議場・展示施設、ホテル、娯楽施設、ショッピングモールなどが一体となった複合型観光・商業施設のことです。日本では、先月『IR』実施法が成立し、2020年代前半の開業が見込まれています。今回は、シンガポールを例に『IR』を具体的に見ていきます。

ポイント1 2005年にカジノ解禁、2010年に2カ所の『IR』が開業 いずれも非常に規模が大きく、沢山の観光客を収容できる複合型観光・商業施設

- シンガポールでは2005年にカジノが合法化され、2010年に「リゾート・ワールド・セントーサ」と「マリーナ・ベイ・サンズ」の2カ所の『IR』が開業しました。
- 「リゾート・ワールド・セントーサ」は先日米朝会談が行われたリゾート地のセントーサ島にあり、展示会や会議が行えるコンベンション・センター、水族館、ユニバーサル・スタジオ・シンガポール、複数のホテルなどが併設されています。一方、「マリーナ・ベイ・サンズ」はビジネスの中心に近いマリーナ・ベイに面し、まるで空に浮かんでいるような船型のプールが屋上にあるホテルや、展示場・会議場、美術館・博物館、劇場、ショッピングモールなどが併設されています。いずれも非常に規模が大きく、沢山の観光客を収容することができます。

ポイント2 巨大な民間投資と観光客の大幅増加などの経済効果 開発費用は2カ所で約1兆円、観光客は約8割増

- 各施設の開発費用は、「リゾート・ワールド・セントーサ」は約60億米ドル、「マリーナ・ベイ・サンズ」は約56億米ドルでした。これは2010年当時の1米ドル=87円で換算すると、約1兆円にもものぼるもので、巨大な民間投資となりました。
- シンガポールでは、経済情勢などの影響もありますが、国全体の観光客数は『IR』開業前の2009年の約968万人から2017年には約1,742万人と、約8割も増加しました。これにより観光収入が増大したほか、多くの雇用も創出されました。



今後の展開 日本では、日本の観光の魅力をアピールする『IR』が期待される

- これから日本で始まる『IR』開発では、日本の伝統や文化、芸術を活かした公演などによる観光の魅力を増進する施設が含まれると見られます。カジノだけではなく、多くの魅力的な施設により観光客の来訪・滞在を促すことが期待されており、シンガポールの幅広い観光客層にアピールする『IR』は一つの参考となりそうです。

※個別の施設に言及していますが、これらを推奨するものではありません。

ここもチェック! 2018年7月25日 IR（『統合型リゾート』）法案がついに成立
2018年6月 5日 堅調な推移が期待される『シンガポール・リゾート』

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券などの売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境などについてのデータ・分析などが含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境などを保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報などに基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料などが記載される場合、それらの知的所有権その他一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。